文化財の現状と課題に対する
申　入　書

令和4年3月29日
中津川市議会　文教民生委員会

文化財の現状と課題に対する申入書

中津川市総合計画基本構想には「歴史や文化、伝統芸能の魅力を発信し、住む人々の郷土愛を育み、文化芸術に親しみ、自主的で活発な文化活動が行えるまち」とあります。

文教民生委員会では、多岐にわたる文化財の現状について調査し、文化財調査整理・愛護団体との意見交換を行い、現状と課題について検討するため協議を重ねてまいりました。文化財の活用が観光・地域振興、社会教育・学校教育にも資するとの認識から、文化財の公開活用に期待される効果や役割が増大している一方で、市民の生活スタイルの多様化や、少子高齢化の進展等を踏まえ保存活用が難しい時代を迎えており、長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な市民の財産である文化財を後世に伝えるために中津川市総合計画に具体的に明記することを含め、下記の事項について申入れを行います。

１.収蔵・展示施設の集約について

各地域に分散している収蔵・展示施設は老朽化が進んでおり、文化財を現状のまま収蔵・展示できない状態であります。また、中津川市所有以外の貴重な文化遺産の保護活用、文化財資料などの一元管理も重要と考えます。収蔵・展示施設について、各地域の実情を考慮しながら計画的に集約していただきたい。

２.文化財の現場保存について

国史跡の中山道落合宿本陣を視察したところ、建物の一部が崩れるなどの老朽化が進んでいました。落合宿本陣は、中山道ぎふ１７宿の中で唯一本陣が残っている貴重な史跡であり、早急に国、県の支援にも期待した改修計画を作成し、整備と保存をしていただきい。

３.人材育成、組織・体制の構築について

市内に点在する文化財の調査・整理・保存は、文化財保護員や文化財の調査・整理を行う地域の愛護団体等の構成員に依存していますので、中津川市全域を対象とした文化財保護員などの定期的な情報共有の場、また、学芸員の増員、古文書を解読する人材育成、文化財の調査・整理・保護をしていくための計画や組織の構築について、後世に伝える体制を整備していただきたい。